



## 東日本 大震災

# ネパールからの村から 被災地に哀悼の布

さらに、6月には自地に赤も青で文様や文字が描かれた細長い布「カタ」が届いた。協会の天野親聡事務

協会の石井町にある事務所には6月、ブジエン村保護区運営委員会から、地区の発電所や学校、索道などに関係する各種団体の長の連名で文書が届いた。「突然の早すぎる逝去をされたすべての人々に対し深い同情と深い悲しみを表明します。ご家族をくされた人が、様々な困難に立ち向かう強さを神より賜らんことを、逝去された人々の魂が天国で安らかならんとを」などと英文で書かれていた。

ヒマラヤ山脈のふもとネパール・ブジエン村から、徳島ネパール友好協会(石井町)に、東日本大震災の被災地に向けて哀悼の意を表す布「カタ」とメッセージが届いた。協会は村に水力発電所や荷揚げ用索道(簡易ロープウェイ)を設置する交流を続けてきており、地元の大震災への関心は発生直後から高かったという。協会は県を通じて、被災地に届けることにしている。

## 徳島の友好協会へ

局長によると、カタは歓迎の際に相手の首に巻いて連帯の気持ちを表すことが多いが、お悔やみの時にも使われるという。

協会は1996年、県内の登山愛好家らが、両国の相互交流などを目的に設立した。寄付金を集め99年に80キロワットの発電所をブジエン村に完成させ、09年から今年にかけては索道をつくった。3月14日に現地であった索道完成記念式典では、村の開発に尽力した日本の大震災への関心が高く、被災者への懸念も行われていた。

協会は会員の中で、カタとメッセージを何とか被災地に届けたいと相談。徳島県に定期的に職員を派遣している徳島県庁を通じ手渡してもらったことになった。

協会の杜和彦会長はこれらが、被災者の目の届くところに置いてもらえればと願っている。「被災地の人をどれだけ勇気づけられるかは分からないが、ヒマラヤの山中の人々も、みなさんのことを心配しているという気持ちは伝わるのではないかと話している。

(鈴木芳美)

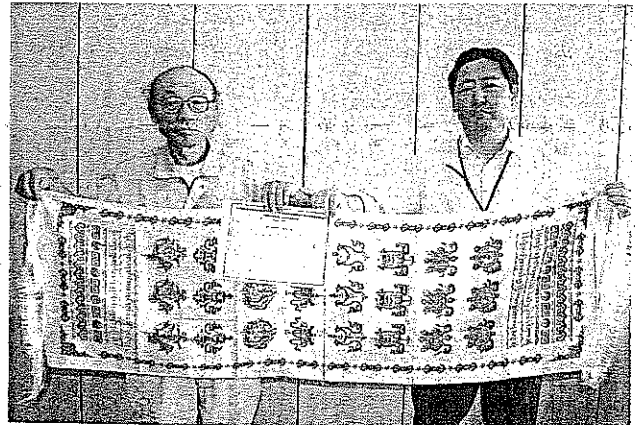
東日本大震災の犠牲者への哀悼が込められた布「カタ」を手に持つ徳島ネパール友好協会の杜和彦会長(右)と天野親聡事務局長(左)石井町藍畑

# ブジュン村から 哀悼の布と文書

県を通じ被災地へ

ネパール友好協

徳島ネパール友好協会が水力発電所建設などの援助を続けているネパール・ブジュン村から協会事務局に、東日本大震災の被災者への哀悼の意を込めた絹の布3枚と文書



ネパール・ブジュン村から届いた布と文書  
—徳島県庁

が届いた。協会は県を通じて岩手、宮城、福島3県に贈る。布には経文と仏画が描かれ、ネパールでは市意を示す際に掲げられる。文書には英語で「村の発展に援助してくれている

日本が巨大地震に見舞われ、逝去された人々に深い悲しみを表明します」などと書かれ、村の自治組織の代表ら8人が署名している。

## 大震災 徳島は

杜和彦会長らが14日、県庁で国際戦略課の角元仁副課長に布と文書を手渡した。被災地に派遣される支援チームが現地へ届ける。杜和彦は「ブジュン村の人たちの気持ちに込められている。遠い国からのエールが震災復興の弾みになればうれしい」と話した。

(奥村靖之)

平成23年6月15日  
徳島新聞